

様式第2号(第7条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称		令和3年度第1回(第21回)川島町子ども・子育て会議
開 催 日 時		令和3年6月2日(水) 午前10時00分～午前11時50分
開 催 場 所		役場庁舎2階 大会議室
議 題		(1) 川島町子育て支援事業計画について (2) 保育園の経営改革の検討について (3) その他
公開・非公開の別		公開(傍聴人3名)
出席者	委 員 (敬 称 略)	中谷 茂一、高倉 富美子、笛木 哲、鈴木 純子、鹿山 洋子、 石川 まり子、飯島 圭太、矢田堀 実香、箕輪 朝子
	その他関係者	なし
	事務局職員	子育て支援課 関 吉治、小林 覚、小島 知美、石島 友美、 小島 秀夫
配 布 資 料		【配布資料】 資料1 令和3年度第1回川島町子ども・子育て会議次第 資料2 川島町子ども・子育て会議委員名簿 資料3 川島町子ども・子育て会議条例、子ども子育て支援法 抜粋 資料4 第1回 川島町子ども・子育て会議スライド資料 資料5 第2期かわじま子育て応援プラン〈概要版〉 資料6 川島町公共施設個別施設計画 資料7 川島町子ども子育て会議スケジュール
審議会等の内容・概要		
1 開会 小林主幹 2 委嘱状交付 新たに任期が始まるため、全委員に飯島町長より委嘱状を交付しました。 3 町長あいさつ 飯島町長 4 川島町子ども・子育て会議会長及び副会長の選出 ・川島町子ども・子育て会議条例第5条により委員の互選によって定めることとなっています。出席した委員より、会長に中谷委員、副会長に高倉委員が推薦され、各委員より承認されました。 5 議事 (1) 川島町子育て支援事業計画について ・事務局より、川島町子ども・子育て会議の役割、第2期かわじま子育て応援プランについて、昨年度の実績を踏まえ、説明しました。 また、昨年度の実績について、前回会議の際、スライド資料で誤った内容があったため、その部分の修正について、説明しました。 (2) 保育園の経営改革の検討について ・事務局より、川島町立保育園について、今後運営していくにあたり、複数の問題が生じており、今後の保育園のあり方を検討する必要があること、今年度の会議内で		

審議する旨を説明しました。

- ・続いて、現在町内にある保育園の現状や、保育士配置の現状を説明しました。
- ・また、昨年度、川島町公共施設個別施設計画が策定され、その中で生産人口及び乳幼児から15歳人口の将来人口の減少とそれに伴う税収減少の予測などから、『公立保育園の民営化』を1つの方向性として示された旨を説明しました。
- ・最後に、今後の会議のスケジュールや内容について説明をしました。
そして、次回会議までに用意してほしい資料についての委員からの意見の募集を6/9（水）まで行う旨を説明しました。

(3) その他

- ・当会議の委員について、非常勤特別職となり、会議への出席に対して報酬及び費用弁償が支給される旨を説明しました。
- ・本日の会議及び会議録は公開かつ会議録は要点筆記である旨を説明しました。
- ・会議録の署名委員は3号委員の鈴木委員と同じく3号委員の鹿山委員に依頼しました。

6 閉会 高倉副会長

ご意見まとめ

(1) 川島町子育て支援事業計画について

- 【委員】事業計画について、「進捗管理を審議する」と説明がありましたがどのようなことでしょうか。結果に対して評価をするということでしょうか。
- 【事務局】その年度の実績について、事務局から事業内容の説明をさせていただき、相対的に評価をして、今後の町の施策に反映していくということです。
- 【委員】審議に向けて、どのような部分を見てほしいのでしょうか。
- 【事務局】審議に向けた判断材料については、順次提示していきたいと考えております。
- 【会長】事務局には適宜資料を提示していただき、それを委員の皆様には評価していただきたいと思えます。
- 【委員】〔資料4〕P13 ②地域子育て支援拠点事業について、量の見込みと実績に大きな乖離がありますが、どのような算出方法で数字を出しているのでしょうか。
- 【事務局】量の見込みについては、令和元年度に町内の子育て世帯を対象に行ったアンケート内の川島町子育て支援総合センター『かわみんハウス』に関する利用希望を基に算出したものです。アンケート実施数と利用希望者数を基に算出したパーセントに町内の子どもの数を掛けて算出しました。また、確保方策はかわみんハウス側から提出された事業計画を基に、事業ごとの利用予定者数を積み上げて算出したものです。
実績は実際の利用者数になります。ただし、令和2年度の実績については、緊急事態宣言に伴う施設休館及び開所後の利用者数制限により、利用者数が大きく減少しております。
- 【委員】地域子育て支援拠点事業については、評価がCとなっていますが、コロナの影響も大きいということは理解しました。国の実績算定方法だと社会情勢の変化は加味することができないのでしょうか。
- 【事務局】現在の国の実績算定方式だと加味することはできません。そのため、コロナの影響については、補足として記載しています。なお、評価については町独自で実施していますので、基準を変更することも可能です。評価の判断基準

について、いただいたご意見を踏まえて今後変えていくことを検討します。

【委 員】確保方策の年度当初の数値について、コロナ等の影響はどのくらい反映できるのでしょうか。

【事務局】数値を定める前に事前に影響を把握でき、反映できる場合はできる限り反映しております。

【会 長】地域子育て支援拠点事業について、最大限対応できる範囲内でやっているのにCとなっているのは仕方ないことだと思いますが、評価は町独自に行っているのなら、評価基準についても今後検討をしてほしいと思います。十分な準備ができていないのに利用者がいないためにCとなるのは周知等の問題なのか、確保方策の修正が必要ではないかということもあります。今年もコロナ禍の影響が大きいと思われますので、確保方策の修正も今後の計画に向けた手段の一つとなるとと思います。

【委 員】〔資料4〕P16 ⑥ショートステイ・トワイライトステイ事業について、他市町村でもニーズがないのでしょうか。

【副会長】児童福祉施設（乳児院・児童養護施設等）に付随する施設のため、川島町に児童福祉施設がないことからニーズが生まれにくいのだと思います。一時的な預かりはファミリーサポート事業で代用できてしまっているということもあります。

【会 長】この事業の今後の方針について、検討はしているのでしょうか。

【事務局】近隣の市町村で実施している事業者と打ち合わせの場を設けたいと考えておりますが、現時点では全く手を付けられておりません。

【委 員】〔資料4〕P16 ⑦ファミリーサポート事業について、前年度と比べると利用者が大幅に減っています。コロナの影響もあると思われますが、1度使ったうえで2回目の利用につながらなかったのか、そもそもニーズがなかったのかは分析しているのでしょうか。

【事務局】分析できておりません。利用者が減っていることは委託先である社会福祉協議会及び子育て支援課で問題と認識しており、今後のやり方についての検討を予定しております。

【委 員】ファミリーサポート事業は学童に通っている児童が習い事の送迎で利用していますが、昨年度はコロナの影響で習い事がお休みとなり、使わなくなったケースが多々見られました。

（２）保育園の経営改革の検討について

【委 員】民営化を検討するとのことですが、今後川島町は子どもが減るのに、民営の業者が入る見込みはあるのでしょうか。

【事務局】現状ではどちらとも言えません。ただし、次回の会議で運営主体別の比較を出すので、その際、運営方法に第3セクターなど完全に民営化ではない方法等も紹介したいと考えております。そのような運営方法も踏まえて検討したいと考えています。

【副会長】検討材料として、保育対象年齢（満0歳～満5歳）の今後の見通しのデータを準備していただきたいです。

【事務局】用意いたします。

【会 長】正規職員と会計年度任用職員の割合・年齢構成等を公立私立別に他市町村のデータを準備していただきたいです。

【事務局】用意いたします。

【会 長】運営方法の比較に使う予定の項目はどうなっているのでしょうか。

【事務局】国の補助金を含めた予算・保育料を予定しています。

【会 長】運営主体だけでなく、実施主体が変わるかどうかも入れていただきたいです。

この会議の目的を考えると子どもの成育の環境に主体を置いて検討する必要があると考えられます。これを数字で把握するのは難しいというのはわかりますが、準備していただきたいです。

参考として、さいたま市では公立民間で比較すると児童の充足率が公立の方が低いということがあります。立地状況が原因ではないことだけわかっています。充足率についても資料としてご準備いただきたいです。ただし、地域の助成があるかどうかも要因としては無視できないので、注意していただきたいです。預けてみたいと思える、保護者が選んだ何かしらの要因があったと思われます。

【事務局】用意いたします。

【委 員】民間の保育園だと人件費を下げるため、加配の配置職員が削られ、配慮が必要な児童が入れない可能性もあります。民営の保育園の加配の児童数・割合をデータとして準備していただきたいです。

【事務局】用意いたします。

署 名	鈴木 純子
	鹿山 洋子